

テーマ「WISC V検査の実施内容とWISC IV検査からの 変更点及び検査結果から見える支援を考える」

講師 大畠



WISC-V 改定の目的

- ①理論的基盤の更新
4因子モデルから5因子モデルへ
- ②子どもの発達に応じる適性の向上
教示の簡素化・積極的な例示や練習の採用、
採点基準・時間割り増しの見直し
- ③検査者にとって使いやすさの向上
実施・採点法の単純化（中止条件の短縮/繰り返しルールの明確化）
- ④心理測定特性の改善
最新のノルム、優位水準の選択肢増加（2つ⇒4つへ）
- ⑤臨床的有用性の向上
得点の差の比較方法の変更、補助指標得点の指標、プロセス得点の増加

WISC-IVとWISC-Vの違い

WISC IV (日本版)	WISC V (日本版)
・発行年 2010年	・発行年 2022年
・対象年齢 5歳0カ月～16歳11カ月	・対象年齢 5歳0カ月～16歳11カ月
・下位検査 10の基礎検査と 5つの補助検査	・下位検査 10の主要下位検査と 6つの2次下位検査

合成得点の増加

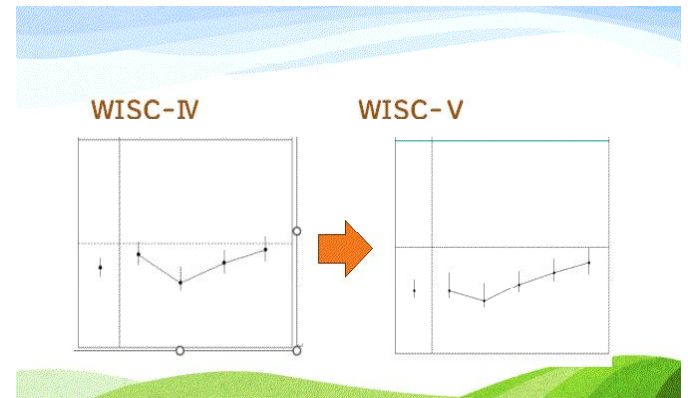
WISC IV	WISC V
・FSIQ ・4つの主要指標	・FSIQ ・5つの主要指標 ・5つの補助指標
5つの合成得点	11の合成得点

WISC Vでは FSIQのみの算出が可能に

- ・WISC-4 では、FSIQの算出には最低10項目の基礎検査をしなければならなかった
- ↓
- ・最低7つの下位検査を行うことでFSIQを算出できるようになった。
- 所用時間45分～60分 の時間でできる
- ＊しかし、支援センターではFSIQのみの算出は現在行っていない。

WISC-IVよりもより多面的に

- ①5つの主要指標
(4因子⇒5因子へ)
- ②補助指標
⇒10の主要下位検査 + 2つの2次下位検査
12の下位検査をとる必要がある



感想

- IVとVの違いが分かり、検査結果を読み解く指標が分かって安心した。子どもの行動が、障害からくるものなのか、生徒指導面なのか区別がつかないので検査を受けてほしいが、保護者の理解が得られず、もどかしさを感じる時がある。
- 合成得点の表記で厳しい表現に変更されたが、保護者が現実を直視していかなければならないので、仕方のないことと考えた。教員もそこを理解していきたい。
- 検査の大変さやIVとの違いもわかりやすかった。子ども一人一人にあった指導をしたいと思っているが、まだまだ勉強が足りないと感じた。普段検査する方の話を直接聞けたので本当に参考になった。
- IVとVの違いがよく分かり、勉強になった。4人
- 実際の困り感を抱えた児童と WISC Vの検査結果を照らし合わせ、具体的な事例も見てみたいと思った。
- 初めての WISC 検査の研修だったが、これを契機にもっと勉強しようと思った。検査結果から生徒のできること、得意なことも分かるので、今日の話をつきかけに普段の生徒の様子に加えて、支援の手立てを考えていきたい。
- 質疑応答の中で「FRIの低い子は、〇〇な子だよ。」と教えていただき、FRIの具体的なイメージがつかめた。クラスの子の WISC の結果を再度見返して、夏休み中に支援方法を見直したいと思う。
- 病院でも WISC Vは、まだ実施されていない所が多いと聞いているので、今後また、今日の資料を見返しながら、見取ることができるよう研修を継続していきたい。
- 支援が必要な子に通常学級でどのように関わってあげられるのか、現在試行錯誤している。検査結果を踏まえて、校内で引き続き検討していきたい。
- 具体的にどのような問題(WISC V)を子ども達が解いているのかを知りたいと思った。
- 検査結果をもとにしながら、個々の困り感を知り、サポートしていきたいと思った。
- 大まかな見方は分かったので、事例をあげてその子に合った支援方法について研修したかった。
- 検査結果は、その児童の状態をよく表していると思う。その子に合った支援方法を考え、向き合っていきたいと思った。
- 検査内容について再度確認することができた。自己肯定感の低い生徒が多くいる。理解をして受け入れ、支援を続けていきたいと思う。今後も検査結果から得られた支援のヒントを生かして、生徒理解を続けていきたいと思う。
- 質疑の時間がとても勉強になった。検査結果をもっと児童の支援に役立てていきたいと思った。